

胃癌骨転移におけるALP flareの検討

○小田裕靖、水野聡朗、斎藤佳菜子、山下芳樹
田丸智巳、景山裕紀、影山慎一、片山直之

三重大学医学部附属病院 腫瘍内科

背景

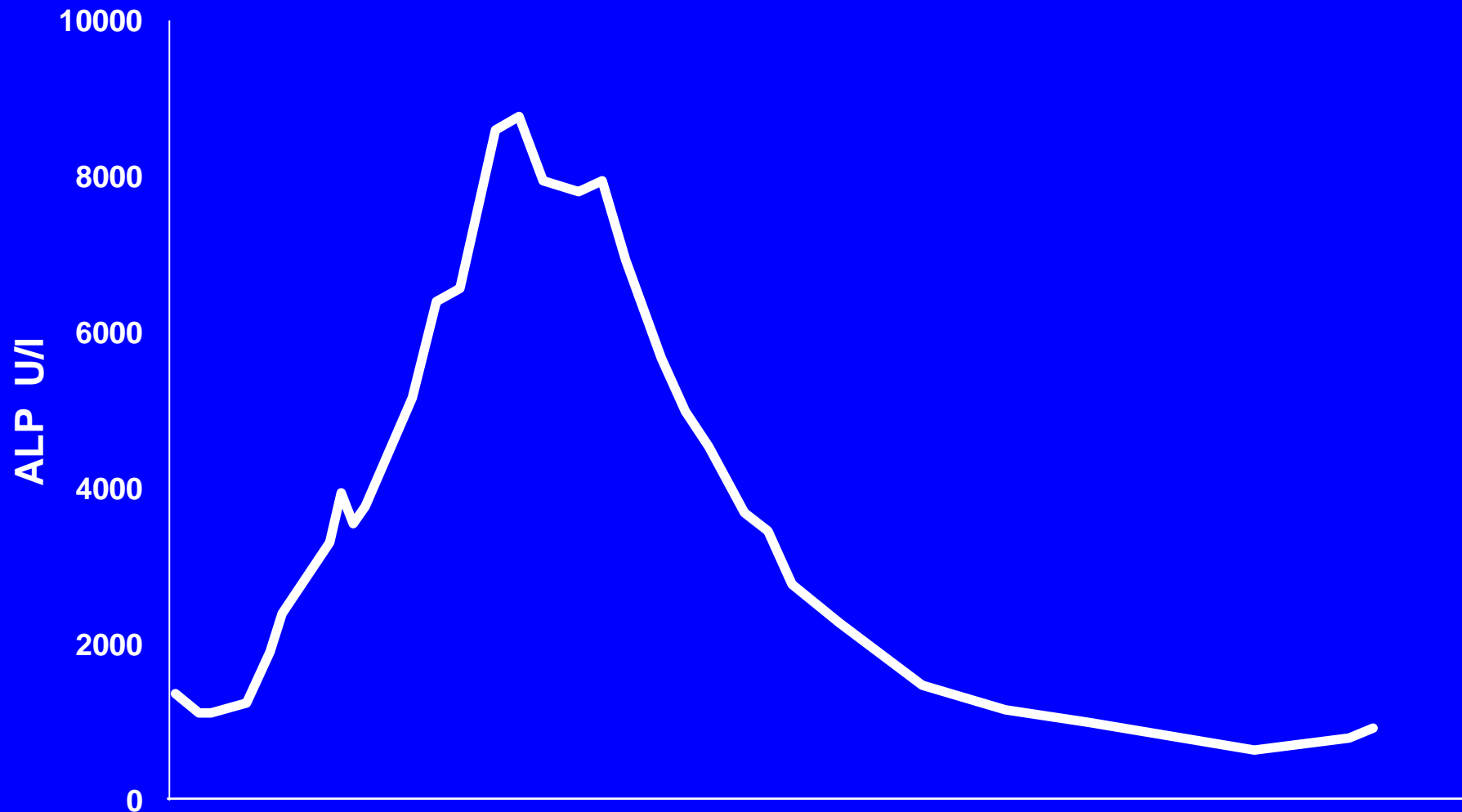
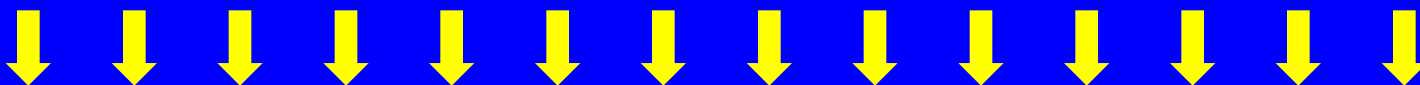
- ALP flareとは、主に骨転移を伴う固形癌において、薬物療法開始後にアルカリフォスファターゼ(ALP)が一過性に上昇し、その後低下を認める現象と定義されている。
- 発症機序について詳細は不明だが、治療後の治癒プロセスにおける骨芽細胞活性化を反映していると推察されている。
- ALP flareは予後因子として有用とされ、乳癌では予後良好⁽¹⁾、前立腺癌では予後不良とする報告がある⁽²⁾。

(1) J Clin Oncology 1995, 13: 1123-1128

(2) Urology 2000, 56: 843-847

ALP flare

化学療法



胃癌骨転移での検討: 生存曲線

